

3. 大会ダイジェスト

・前夜祭「川の恵みと川仲間の集い」（参加者：約110名）

：9月26日（金）会場／国立オリンピック記念青少年総合センター
国際交流棟 レセプションホール

*全国の川の恵みの紹介と試食会

：約30品目の日本の“いい川”が育んだ恵みを各地から持ち寄り、交歓しました。お酒、ワイン、水、焼酎、海苔、鮭や鮎の加工品、ハチノコ、川ガニ、こんにゃく、漬け物、梨、グワバなど、たくさんの川の恵みが集まりました。

*幻灯会 「『川の日』ワークショップ10年物語」延藤 安弘さん

：「川の日」ワークショップ10年間に紡がれた物語を、10年間総合コーディネーターをつとめられた延藤安弘さんの映像と即興の語りでつづった幻灯会。

*“いい川”ふりかえりワークショップ：過去のグランプリ等入賞団体のその後の報告

- ・三井 元子さん/東京・綾瀬川
- ・土井裕子さん/宮崎・五ヶ瀬川
- ・星島 卓美さん/新潟・通船川・栗ノ木川

*「讃河縁歌」宗匠 桑子敏雄さん

：昨年の前夜祭でも好評だった参加者全員による川への思いを、和歌や連歌で歌合せし、詠み合わせの妙縁を楽しむ「讃河縁歌」を行いました。約35点の縁歌が参加により創作され、優秀賞には賞状が送られました。



前夜祭会場の様子



全国各地から持ち寄られた川の恵み

大会1日目：9月27日（土）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

実行委員会

：開会に先立ち、大会の主旨や選考の進め方等について共有する実行委員会。大会を主催するいい川・いい川づくり実行委員会（水環境の保全・改善に取り組むNPO、学識者、関係機関職員等140名）から当日約100名が参加しました。ワークショップの目的や方法、選考の方法や視点、選考員の役割について確認します。

開会・全体集会

「川の日」ワークショップから「いい川・いい川づくりワークショップ」へ。その第1歩を踏み出すべく大会はスタートしました。応募者、実行委員ほか参加者が一堂に会する全体集会で、それぞれの川のタカラモノを発見しようという呼びかけとともにワークショップは開会しました。



全体会場のステージに全エントリー60団体のパネルが並び、いよいよいい川・いい川づくりワークショップの開幕です



全体発表会

全体集会に引き続き、全体会場のステージで60件全ての団体がそれぞれ3分間の制限時間を駆使して一気に発表する全体発表会は今回初めての試み。会場からも真剣なまなざしが注がれました。



テーブル選考

全体発表会での発表を受けて発表内容の主たるテーマごと 8 テーブルに分かれてのテーブル選考が行われました。ここでは発表はなく、テーブルコーディネーターの進行によって約 80 分間の質疑や討論により、各会場とも熱心な議論が繰り広げられました。各テーブルで“いい川”“いい川づくり”の視点を探りながら、全体選考（二次選考）の対象として各 2 件が推薦されました。



テーブル選考会（テーブルB）



テーブル選考会（テーブルD）



テーブル選考会（テーブルF）



テーブル選考会（テーブルG）



テーブル選考会（テーブルH）

全体集会

テーブル選考を終え再び全体で参集し、各テーブルからコーディネーターが選考結果とともに、議論の概要や評価のポイントなどを報告。また、韓国の「川の日」大会から推薦された小学生を含む 3 つの団体による報告が行われました。

テーブルコーディネーターからの報告



【韓国からの報告】

- 蟾津江（ソンジンガン） 徳峙初等学校 キム・ミンソンさん
- 雲中川（ウンジュンチョン） 城南梅松初等学校 環境奉仕隊 キム・ギョンヒさん
- 全州川（ジョンジュチョン） 世の中を変える「市民行動21」 チャン・セファさん



ステージに並んだ韓国からの参加者



韓国の小学生キム・ミンソン君の発表

交流懇親会

発表者、実行委員ほか 300 名以上が参加し、二日目の選考に関わるアピールとともに、活発な交流が行われました。



交流懇親会の様子



2 日目の選考に向けたアピール

大会2日目：9月28日（日）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟 大ホール

復活選考

大会2日目は、早朝から復活選考でスタートします。復活選考は、一次選考で惜しくも選外となったものの中から、キラリと光る“いい川”“いい川づくり”の評価の視点をもつものをフォローアップするものです。会場に一齐展示されたパネル前にしたポスターセッション形式のアピールが行われ、2日目の参考を担当するコメンテーター等の投票により6件が全体選考の対象として追加されました。



入選者発表会

テーブル選考、復活選考からの推薦22件が、ふたたびステージで各3分間の発表を行ないました。



全体選考

全体会場での選考会（19件）：一次選考からの推薦9件＋復活選考から10件

対象となる22件について2名のコーディネーターと5名のコメンテーターによる選考（投票と議論）、会場からの活発な応援意見も交え、13件が公開討論会での最終選考に付託されました。

※議論の内容は、p.32～41に掲載されています。



ステージにはコーディネーター、コメンテーターとともに22件のパネルが並ぶ



会場から注目が集まるステージ上での投票風景

公開討論会

全体選考からの推薦 13 件

森山奈美・延藤安弘の両コーディネーター及び5名のコメンテーターによる最終選考兼ねたまとめの討論。今回のワークショップ全体を通した“いい川”“いい川づくり”の新たな視点、会場とのやり取りを経て、グランプリ以下各賞が決定しました。

※議論の内容は、p.42～59に掲載されています。



公開討論会の様子(森山・延藤の両コーディネーター)



いい川、いい川づくりの新たな視点を探りながら最終選考を兼ねた熱心な討論が繰り広げられる

表彰式

グランプリ、準グランプリをはじめとする各賞の表彰とともに、特別賞の森清和賞、広松伝賞、“いい川”技術賞などの講評、表彰が行われました。入賞者には、それぞれ“いい川”“いい川づくり”のキーワードを盛り込んだ賞名とともに、昨年のグランプリ・準グランプリ受賞者が用意したオリジナル表彰状や副賞、オリジナルの表彰状が手渡されました。

最後に延藤コーディネーターより全体の講評として、「いい川・いい川づくりキーワード 2008」が発表され、2日間にわたるワークショップは幕を閉じました。



表彰式の前に、昨年グランプリを受賞した飯田市立和田小学校の子ども達が、オリジナルソング「遠山川はみんなの宝物」を披露してくれました。



ステージに並んだ受賞者。賞名の発表とともに、それぞれオリジナルの表彰状や副賞が手渡されました

